



おうち時間は 家族の役割を 考えるチャンス

高橋さん一家の日常

高橋さん一家は、家族で協力して暮らしていくために数々の工夫をしています。今回は、ご夫婦へのインタビューを通して家族間のコミュニケーションのヒントをご紹介します。

市内に住む高橋さん一家は、夫婦と3人のお子さんで暮らしています。妻の陽子さんは、町田市男女平等参画協議会の委員を務めています。

家族時間が増え、子どもの成長を身近に感じる

新型コロナウイルスの流行によって、家族だけで過ごす時間が増え、子どもたちの成長に以前よりも細かく気が付けるようになりました。

ストレスを感じることもありますが、我が家では週末に大人と子どもがそれぞれ映画とお菓子を楽しむパジャマパーティーを開催して、平日とのメリハリをつけてみんなで楽しみながら過ごしています。

新しい日常の中で、仕事環境も大きく変化

妻は、以前から在宅勤務制度とフレックス勤務を併用しています。一方、夫は最近初めて在宅勤務が可能になり、育児や家事に使える時間が増えました。夫は育児休暇を取得していませんが、平日は早く帰宅することで積極的に育児に参加しています。

我が家の家族コミュニケーションは毎日の会話を大切にすること

平日も家族そろって夕食を取っているほか、子どもたちが寝た後には夫婦でお茶を飲みながら話す時間を意識的に取り、すれ違いを減らす工夫をしています。夫婦の家事分担について、「言わなくても通じること」は理想ですが、口に出して伝えることでお互いの困りごとに気付くことができます。

例えば、家事をすごく大変な思いをして終わらせたのか、余裕をもって終わらせたのかは、はたから結果だけを見ると分かりません。しかし「ここがすごく大変だった」と過程を言葉で伝えることで「次は参加しよう」という行動につながりますよね。

新しい日常が進化すれば家族の生活も変わっていく

社会全体で、さまざまな働き方があることが当たり前の世の中になれば、家族の生活も大きく変わると思います。他にも、学校の先生との面談がオンライン化すれば、父親も母親も休みをとらずにオフィスからでも気軽に参加できます。また、父親の立場から言えば、男性も入りやすいおむつ替えスペースがもっと増えると良いですね。

問 男女平等推進センター ☎723・2908

